

ふるさとの川の「今」を知る —朝来市山東町地区河川生物調査について—

藤本 邦彦・波多 野哲哉・小山 修平
(山東の自然に親しむ会)

はじめに

わが町でいう「ふるさとの川」とは円山川上流域の与布土川、粟鹿川、磯部川などを指す。近隣他町に先駆けて下水道普及率100%を達成し、旧町の広報誌には「ホタルが増えた！清流が戻ってきた！」との文字が躍る。・・・それは本当のことなのだろうか。

ひとはくキャラバン開催

そうした疑問を胸に抱きつつ数年が過ぎた頃、「ひとはくキャラバン」の山東町での実施が決まった。町内の自然に興味を持つ人々が集まり、実行委員会を立ち上げた。ひとはくの研究員の方々のご指導の下、様々なプログラムが実施された。その中に「川の生き物をさがそう！」もあり、子供から大人まで多くの人が川に親しむ活動に参加した。

【プログラム内容】

・植物を調べよう・草木染に挑戦！・プラスチック封入標本を作ろう！・蜂蜜絞りを体験してみよう！・大地の生い立ちを探る・夜の昆虫観察会・星を見る夕べ・ハチのはなし<トリビアの泉>風・化石のはなし・川の生き物を探そう！



【川の生き物をさがそう！】

キャラバンの残したものと

① 人材の発掘、育成

自然に興味はある。しかし専門性は低い。でも自然に親しむきっかけが欲しい。こういった、ニーズの受け皿が確立できたことは非常に大きなことであった。また、隠れた人材の出現も大きな力となった。

② ネットワークの構築

これまでバラバラだった人材の集約が出来、情報の集約も可能となった。必然、協力体制がとりやすくなった。

③ 「ひとはく」とのつながりの強化

キャラバン以降の活動にゲストとして参加いただき、より専門的な解説をいただくことも出来た。また、ステップアップセミナー等山東町教育委員会との提携事業も実現できた。

その後の活動

① ステップアップセミナー「カエル」(地域研究員養成講座)

カエルに焦点を当て、山東町内の生息状況調査(捕獲・聞き取り)、環境調査(水温・電気伝導度)、同定方法の学習、分類学基礎講座、生態系基礎講座などを実施。

② 小・中学校との交流事業

ゲストティーチャーとして参加。川の生き物観察会、田んぼの生き物観察会、オオサンショウウオの観察会、昆虫観察会、昆虫標本作成など。地元の小学生、中学生の「自然に

親しむ活動」の一助を為した。

③ 地域文化祭における水生生物水槽展示

2005年・2006年・2007年と実施。山東町内の各河川に入り魚類を中心とした生物を採集し生体展示を行った。水槽数も約20、魚類の種数も約20を数えた。新聞、市広報にも記事が掲載され、多くの人々の目に触れた。また、2007年は初めて来場者から聞き取り調査を行い、以前どんな魚が棲息していたのか、どのような環境だったのかという情報を収集した。



④ 共生のひろばへの参加

第1回「共生のひろば」に参加。「カジカガエルが住める川（口頭発表）」、「山東町の生き物マップ（展示）」、「迷蝶ウスコモンマダラ（展示）」の3件の発表を行った。「山東町の生き物マップ」で館長賞受賞。

まとめ

確認できた生き物

上流	下流
カジカ(田)、アカザ(田)、アマゴ、ナガレホトケドジョウ(田)、オオサンショウウオ(幼虫)(田)、モリアオガエル(田)、カジカガエル(田)	カマツカ、オイカワ、ムギツク、ナモロコ、ギンブナ、スナガニゴイ、コイ、ナマス、ウナギ、ギギ、モツゴ、ブラックバス(外来)、ブルーギル(外来)、アメリカザリガニ(外来)、ツチガエル(田)、スッポン(要注目)
カワムツ、サカハヤ、ヨシノボリ、ドンコ、ドジョウ(田)、シマドジョウ、オオサンショウウオ(田)、イモ(要注目)	ヌマエビ(田)、スジエビ、サワガニ
イシガメ	

山陽の自然と共生会 27

⑤ 与布土地域自治協議会「かえるの郷部会」の活動への参加協力

朝来市の提唱する「自考・自行、共助・共創のまちづくり」の一環として、各学校区において地域自治システムの構築を目指している。山東町の与布土地区で立ち上げられた自治協議会に「自然と共生する地域づくり」をコンセプトとした「かえるの郷部会」が設立され、この部会への参加及びサポートを現在行っている。

- (部会活動例)・ヒダサンショウウオの棲息をこの地域で初めて確認。
- ・地域住民や与布土小学校の先生方と地域自然環境に関する勉強会を実施。

考察と展望

キャラバン事業実施以降、様々な活動が派生し継続発展できたが、「川」に関係する活動が共通項として明確化した。調査内容をまとめた結果(図1)、兵庫県版レッドデータブックのB、C、要注目種を多く確認できた。そして聞き取り調査で過去に見られた魚類として、スナヤツメ、ヤマメ、タナゴ類等が生息していた可能性が高いことが分かってきた。また、伊勢湾台風が大きな転換期となり、その後の河川工事等で大きく環境が変化したことが伺えた。こうした環境へのダメージが過去にはあったものの、ふるさとの川は素晴らしいということが再確認できた。それは山東町の自然の魅力には確かな価値があるということ。それが誇れるものであるということ。そしてそれを「楽しむ」「知る」「伝える」ことが我々の活動のテーマと考え、今後も継続していきたい。